

第一教程（課題研究）

ウッドバッジ団委員研修所静岡第23期 第一教程（課題研究）



日本ボーイスカウト神奈川県連盟横浜南央地区

横浜第96団 ボーイ隊長（次年度団委員長予定） 中川 和之

2015年8月

BSY96 中川

課題 1

日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」を熟読してください。

1：ボーイスカウト運動について

この基本的な認識を、保護者らと共有することが重要。全保護者のボーイスカウト講習会への参加を求めているし、保護者会や育成総会などで、自団の活動に基づいて、ボーイスカウトの教育方法の特徴などについて、紹介するようしていけば良いのではないかな。

2：団について

- ・団委員について

各隊の保護者から選ぶとあるが、保護者会は各隊任せになっているのを見直す必要がある。各隊の保護者代表的な存在も求められていることも理解できる。

3：団委員会について

- ・委員会組織について

これまで周年行事や団広場問題、上進時期見直しなどで委員会組織を作ったが、集まるのもなかなか難しい。m1などでの情報共有が有効だと思う。

- ・団ニュースの発行について

検討しても良さそう。それを理由に、各隊の集会を訪問できる。

- ・各隊の集会計画について

各隊の集会実施計画ではなく、早い段階で隊長が一人で書ける企画案を団で共有することを求めていけば良いのではないかな。各隊のリーダー会議にもよいはず。

- ・各隊の進歩について

現在、団で進歩記章類の費用を出しているのだから、その請求もかねて、各部門の進歩を毎月の団会議か、もしくは団m1で毎月、報告をしてもらおうのが良いと思う。

- ・名簿管理について

退団者＝卒団者についてのリストができていない。スカウトクラブへの展開も考えて、40年間の資料にしたい。

- ・団会議について

開催日を固定すること。各隊などから事前にメールベースでも書類をもらって進めることなどを考えたい。

4：スカウトクラブについて

40年の活動があり、かつて団で登録していた地域居住者も少なからずいるが、把握されていない。近年のスカウト人数がピークだった年代もそろそろ成人するため、45周年までには、OB/OGたちに声をかけたい。

これらのことを、徐々に団全体を把握しながら、進めていきたい。

課題 2

日本連盟教育規程「第1章 一般原則」、「第2章 加盟登録」、「第3章 団」、「第4章 都道府県連盟」、「第5章 地区」、「第7章 教育の方法(7-33～7-43)」を熟読してください。

・一般原則について

忘れられがちなこととしては、青少年の意志決定への参画が上げられる。団として、各隊でどのような意志決定への参画が行われているかを把握し、スカウトを支援することが求められるであろう。また、保護者へも、良く理解をしてもらうことが大事である。一方で、青少年の発達度合いに応じた参画であることも留意すべきであろう。

団が、国際活動を推奨するよう努めねばならない役割が明記されているのは初めて知った。

・加盟登録について

団による登録は、重要な手続きである。私自身、現役スカウト時代に親の転勤があり、無登録のまま活動を続けていた「横浜48団」に転団で一時期「所属」していたこともある。また、リーダーとしての初期登録は転勤が決まった98年度からだったが、実質は1年以上前から活動をし、登録前の97年3月に指導者講習会に出て、DLや副長を務めていた。当時、未登録だったのは、あとから知ったほどである。

・団、県連、地区について

現時点で、当団の育成会の代表者は、団委員とはなっていないが、規約にあるのは知らなかった。ベンチャーがBVS補助者になれることは、把握していなかった。デンコーチは、団委員会が委嘱することも知らなかった。副長補は、団委員会の承認を経てだが、隊長が任命できるのも、知らなかった。これら、団の視点で読み直すと、知らなかったことがいくつかあることを確認した。

制服については、同一の隊では、同型の制服が望ましいという規定があり、制服の更新は同時期に行うことが望ましいということが分かる。移行措置をどうするか、保護者、指導者アンケートを実施することが必要だと思われる。ちなみに、女子スカウトだけ、違う帽子というのは、この規定に反しているようにも思われる。

年功章は「着用することができる」とあり、記章、標章とは異なった書きぶりになっていて、使用は必須ではないと考えられるように思う。（自団では運用していない）

・教育の方法について

隊の活動については隊に任されており、団との関係については記載がないことも確認した。

近年、実施しているBS以上の団面接については、初級から1級、ベンチャー章は、団が行うことが、規定に明記されていたのも初めて知った。隼、富士だけでなく、菊章の授与も地区の授与式が原則とは知らなかった。地区総会で紹介をすることで、これに代えているということだと理解した。団が独自でスカウト顕彰ができることは、知らなかった。運営上、導入は難しそうだが。

環境教育については、新環境バッジの位置づけを、規定で初めて知った。外国語バッジは、団で県連に申請するのは初めて知った。帰国子女などの場合は、使える。海外派遣については、友好団の長期キャンプへの参加なども、相手国が認めた場合には派遣対象となる規定があったことを知った。それには、日連コミの承認が必要なことも知った。

規定集全体をこれだけ目を通したのは、初めてだった。

課題 3

ボーイスカウト隊リーダーハンドブック「第3部隊の運営」の「8章 隊指導者」, 「9章 隊の運営」, 「10章 隊を支える組織」を熟読してください。

BS課程の研修所は、旧隊長ハンドブックで参加しており、実修所の際にも、訓練ニーズとあった部分しか読まなかったのが、新ハンドブックを詳細に目を通してはいなかった。字が小さいのは、ちょっと閉口するが、この字を読める年代でないと、隊指導者がつとまらないということでもあると思う。

スカウト教育法での隊指導者の役割が、世間で言うファシリテーターという書き方をしているのは改めて納得。

このハンドブックは、BS隊指導者を長く経験した人であっても、改めて読み直すことが重要だと思う。良くできた本だと感じる。BSスカウト向けのスカウトハンドブックも同様。カブ、ビーバーの隊長ハンドブックは、やはり物足りないものを感じる。CS、BVS指導者も、BSのリーダーハンドブックを読むことを薦めたい。WBに行くより、効果的ではないか。

指導者の知識や技能の獲得の項目に、「他の大人との間に適切な人間関係を築く技能」とあるのは、納得。

スカウトのリーダーシップは、指示、説得、参加、委任を状況に応じて使い分ける必要があるのは良く理解できる。隊指導者が意識して実行することが重要で、GBにも意識させられるのが望ましい。

隊指導者の役割が、まず、安全にあることを意識してもらうことは重要。